

# プラズマで滅菌・殺菌効果を期待

## 地方創生特別委員会

8月9日 協議会開催

幸田町まち・ひと・しごと創生総合戦略

中間目標値の達成状況と評価。交付金事業の評価などを協議。

**Q** 薬剤を使わずに、低温プラズマ技術で、イチゴの滅菌・殺菌効果を農家は期待していると思うが。

**A** 名古屋大学で安全性の確認と滅菌・殺菌効果の実験準備を進めている。

**生産性向上特別措置法**  
中小企業等の労働生産性



プラズマ直接照射自動搬送装置

の向上を図ることを目的に制定された。

先端設備等導入計画の認定事業者に対する優遇制度がある。

**Q** 周知の方法は。

**A** 先端設備等導入計画セミナー、ホームページ、チラシなど。

**Q** 現時点の認定事業者は。

**A** 3事業者。他に3者から相談を受けている。

**Q** 固定資産税の優遇3年間ゼロは、国から町に補填があるのか。

**A** 町は不交付団体なので補填はされない。

# まちづくり推進事業など視察

7月3日・4日 福井市、石川県加賀市、金沢工業大学白山麓キャンパスを視察

◇福井市

ふくい産業支援センター

ものづくり改善インストラクタースクールを開催。28人の修了生は、各企業の現場改善活動で活躍されている。

◇リノベーションまちづくり推進事業

まちなかの出店・開業・創業を支援する目的でスタート。老朽化した遊休不動産を取り壊さずに、手を加えて新しい事業を展開している。

◇ビジネスプランコンテスト

地域活性化に結びつくビジネスプランを募集して、毎年4件程度を事業化・商品化につなげている。



まちづくり推進事業など視察（福井市）

◇加賀市

IoT推進事業

農業分野で、ぶどうのルビロマンや梨の商品化率の向上。製造業分野、観光分野への導入が研究されている。

◇金沢工業大学

白山麓キャンパス

今年4月にオープンし、先端技術の研究に取り組んでおり、全国的に注目が集まっている。

# ダイナミックな編集を学ぶ

## 議会広報特別委員会

7月9日 岩手県金ケ崎町  
議会広報を視察

面積は179.76km<sup>2</sup>、人口1万5687人の北上川に接する水と緑の自然環境に恵まれた町である。

編集モットーはありのままに解りやすく(中学生が読んでも理解できるように)、スピード発行(議会定例会の翌月第一木曜日)。記事の配分の目安は、文章30%、見出しと余白30%としている。

表紙写真はシリーズ化し、現在は双子ちゃんシ



ダイナミックな編集を学ぶ(金ケ崎町)

リーズ。

特別企画や町民主役のページを設けている。議会広報やお知らせ版を発行し、各自治会に配布と公共施設に掲示し、議会傍聴を呼びかけている。

「常に創意工夫、過去の号にこだわらない」「積極的にクリニックしてもらう」などの、議会広報編集12ヶ条を委員が守り、写真の大きさやレイアウトなどダイナミックな編集となっている。町村議会広報全国コンクールで13年連続受賞している広報を学んだ。

# 議会広報の編集と技術を学ぶ

7月10日 全国町村議会広報研修会に参加

今年は、第1分会から第4分会に分かれて研修が行われた。吉村潔氏より、議会機能の発揮と広報との連携、定例会の焦点、重要議案の審議プロセスがわか



吉村潔氏からクリニックを受ける

る、進んで手に取り読みたくなる、多様な住民参加を实践する広報など、編集と技術を学んだ。本町の広報クリニックは、「定例会のあらまし」「注目事業」「住民の声を聞く」などの構成は良い評価を得た。

8月8日 第31回愛知県町村議会広報研修会に参加

講師は、国立国語研究所 広報室、非常勤研究員の山田貞雄氏。「議会広報のあり方」として、ふさわしい日本語の使い方を学んだ。他市町のクリニックでも写真の載せ方、題字やQRコードなど参考となった。編集後記は、「載せる意味

はない」との事。今後、委員で相談していく。



県の町村議会広報研修会

議長	杉浦あきら
発行責任者	足立初雄
委員	伊與田伸吾
委員	稲吉照夫
委員	鈴木重一
委員	浅井武光
委員	池田久男
副委員長	水野千代子
委員長	丸山千代子

### 表紙写真

リレーなどの種目に、全員参加し、力を出し切った6年生。



9月27日 小学校校体育大会